

札幌市営企業調査審議会（令和3年度第1回病院部会）

1 開催形態

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面による開催

2 開催期間（意見聴取期間）

令和3年7月20日（火）～8月17日（火）

3 出席委員（11名）

荒木委員、大橋委員、金子委員、河原委員、今委員、紺野委員、竹之内委員、名本委員、早坂委員、平本委員、渡辺委員

4 審議内容

議題1 「令和3年度予算の概要について」

議題2 「市立札幌病院における新型コロナウイルス感染症への対応について」

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答	
荒木 委員	意見 (議題2)	<p>新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況において、感染症指定医療機関である市立札幌病院の果たす役割は大きいです。</p> <p>これまで同様、状況に応じて患者受入調整等、役割を果たすようお願いいたします。</p>	<p>7月以降の新型コロナウイルス感染症の再拡大に対応するため、当院でも感染症用病床を再度拡充して治療にあたっているところです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況については今後も予断を許さないところではありますが、引き続き感染症指定医療機関としての役割を果たしてまいります。</p>	
金子 委員	意見 (議題2)	<p>新型コロナ感染患者が再度増加傾向にある中での献身的な診療に感謝しております。</p> <p>基本的に賛同できる内容ですが、以下の2点について質問します。</p>	<p>ねぎらいのお言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお声を励みにして、今後とも診療にあたってまいります。</p>	
	質問 (議題2)	<p>令和3年に入ってからの4, 5, 6月の外来、入院患者の状況について簡単に教えてください。令和2年、例年に比較してどのような状況でしょうか。</p>		<p>令和3年4月から6月までの実績は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延外来患者数：55,507人 令和2年度比▲5,083人 (▲8.4%) 令和元年度比▲21,549人 (▲28.0%) ・延入院患者数：29,018人 令和2年度比▲5,939人 (▲17.0%) 令和元年度比▲19,927人 (▲40.7%) <p>また、いずれも過去5年間で最も少ない実績となっています。</p>
	質問 (議題2)	<p>令和2年度に新型コロナ感染患者診療のために、制限せざるを得なかった患者さんについて、具体的に教えてください。例えば、救急で断った患者数、手術など延期または断った数と病名、救急患者で断らざるを得なかった患者さんに対する対応について特別な情報提供はしておりますか。</p>		<p>継続的に診療されている方の診療はお断りしませんでした。が、「新患、Dr to Dr、不急な手術、非紹介患者」についてはお受けできない時期がありました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応により、救急のお断りや手術の延期等に至った具体的な数及び症例の把握まではできておりませんが、令和2年度の救急車等搬送件数は2,310件(前年比▲1,226件)、手術件数は4,804件(前年比▲2,166件)とそれぞれ前年度から3割以上の減少となり、一般診療の制限の影響を受けたものと考えています。</p> <p>また、一般診療の制限が必要になった際には、お断りに至る前にできる限り事前に診療体制について広報を行うこととし、連携医療機関へのFAX送信、札幌市医師会への連</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
			<p>絡、当院ホームページの更新等を行いました。感染状況が一時的に落ち着き、一般診療体制を拡大できることとなった際にも、同様の手法によりお知らせしました。</p>
河原委員	質問 (議題1)	<p>資料2 ページ2/5について 「新型コロナウイルスワクチン個別接種体制構築に係る費用として…」人件費が増になっています。 予約を休止する期間があると、予定等にも変動が生じるのではと思います。</p>	<p>新型コロナウイルスワクチン個別接種体制構築に係る人件費の補正を行いました。これは、ワクチン接種業務に携わる正職員や会計年度任用職員の特殊勤務手当及び時間外勤務手当にあたります。予約の休止により接種の実施数が減れば、支出も減ることとなります。</p>
	質問 (議題2)	<p>資料3 ページ2/2について 「7月20日時点では、ワクチン供給見通しが不明で、新規予約を休止…」という状況ですが。 市民もワクチン接種の情報がよく分からず、病院の方にも電話して、ある病院では、問い合わせが殺到し業務に支障が生じているとニュースで知りました。市立札幌病院もこの問い合わせが多く影響が出ていますか。</p>	<p>ワクチン接種の開始について報道されて以降、多数の問い合わせがあり、少なからず業務に影響が生じています。 当院に限らず医療機関には、患者からの容体急変時の相談や他医療機関からの治療内容に関する照会など、緊急を要する電話が寄せられますので、電話の混雑は市民の生命に関わる深刻な影響も懸念されます。 当院では、ワクチン接種の予約受付や問い合わせによる電話の混雑緩和等を目的として、6月までは臨時的に10台の電話を用意して事務職員等が対応にあたり、7月以降はコールセンターを開設して対応にあっております。</p>
	意見 (議題2)	<p>諸事情はあると思いますが、全国的にみて、北海道と札幌市、ワクチン接種が遅れている現状に公平性など疑問に感じます。</p>	<p>市内の接種状況は全国平均よりもやや遅れている状況ではありますが、8月に入り、9月までの供給量の見通しが立ってきました。市民のワクチン接種を担う医療機関の一つとして、引き続き接種を進めてまいります。</p>
紺野委員	意見 (議題2)	<p>交付される補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症が落ちついたときに健全な経営状態であることを期待します。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症患者の受入れに伴う減収の補填には引き続き国の補助金を活用するとともに、できる限り感染症への対応と一般診療との両立を図ることで、アフターコロナに備え、本業の診療収益の確保に努めてまいります。</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
竹之内 委員	意見 (議題2)	<p>新型コロナがまん延する中、コロナのみならずあらゆる疾患への対応に大変なご尽力をいただいている皆様に感謝申し上げます。</p> <p>資料を見まして、今年5月後半の時点では、コロナ病床はほぼ満床の状態にあったものと理解しました。デルタ株の広がりにより今後前回ピークを超える感染者が発生することが予想される状況です。一般病床の確保も必要であり難しい問題と拝察しますが、できる限りの受け入れ態勢の拡充をご検討いただければと思います。</p>	<p>今年5月の段階では、一般診療を大幅に制限して感染症患者の治療にあたったものの、日々の入院患者が非常に多く、5月下旬から6月初めには、準備していた100床(重症15床、中等症等85床)のうち、特に中等症等は当日の入退院を合わせて最大89名となり、満床の状態が継続していました。</p> <p>7月以降の新型コロナウイルス感染症の再拡大に対応するため、現在は感染症用病床を再度拡充して治療にあたっているところです。引き続き、市内の感染状況に応じて受入病床の確保に努めてまいります。</p>
名本 委員	質問 (議題1)	<p>資料2の4ページの表で「令和2年度の病床利用率の決算見込み」が55.7%と低くなっている理由と、その内訳として「コロナの病床利用率(48.8%)」が「コロナ以外の病床利用率(75.7%)」より低くなっている理由を教えてください。</p> <p>また「令和3年度の病床利用率」を令和2年度の決算見込値(55.7%)よりかなり高く(85.6%)設定した理由を教えてください。</p>	<p>令和2年度の決算見込が予算に比べて低くなっているのは、新型コロナウイルス感染症患者受入れのため、一般病床の縮小や不急の手術の延期、新患の受入中止などを行ったことが大きな理由です。</p> <p>コロナの病床は感染拡大に備え余裕を持った数を確保しておりましたが、確保した数ほどの患者が入院せず空床となるため、病床利用率が低くなっています。</p> <p>令和3年度予算は、ワクチン接種等の効果により新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなると見込んでいたため病床利用率が高くなっています。</p>
	質問 (議題1)	<p>資料2の1ページで「令和3年度の新入院患者数(18,029人)」が「令和2年度の新入院患者数(18,441人)」より低く見込まれている理由と、「令和3年度延入院患者数(209,839人)」が「令和2年度延入院患者数(207,368人)」より増加すると想定した根拠を教えてください。</p>	<p>令和3年度予算は令和元年度11月～1月の実績を、令和2年度予算は令和元年度中に作成した令和元年度決算見込をもとに算出しているため差があります。</p> <p>「令和3年度予算の平均在院日数(10.6日)」を「令和2年度予算の平均在院日数(10.2日)」よりも長く見込んでいたため、令和3年度予算における延入院患者数が多くなり、新入院患者数と延入院患者数の大小関係が逆転しています(資料2の2(参考)業務量参照)。</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
	質問 (議題1)	資料2の1ページで令和3年度の「外来患者数の一日平均患者数」を令和元年度と同数と想定した根拠を教えてください。	令和3年度予算では、新型コロナウイルス感染症の影響がほぼなくなるものと見込んでいたため、年度末にのみ影響があった令和元年度の実績を用いています。
	質問 (議題1)	令和2年度から令和3年度の間における入院単価の増減率と外来診療単価の増減率を教えてください。また、これらが増減した理由を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院診療単価（予算） 令和2年度：77,287円 令和3年度：77,796円(前年度比+0.7%) ・外来診療単価（予算） 令和2年度：20,623円 令和3年度：20,814円(前年度比+0.9%) 入院診療単価、外来診療単価ともに、高額薬品の使用増などにより上昇しています。
	質問 (議題1)	<p>「医業収益におけるその他医業収益」と「医業外収益のその他医業外収益」の違いと、「医業収益における一般会計繰入金」と「医業外収益における一般会計繰入金」の違いを教えてください。</p> <p>またそれぞれが令和2年度から令和3年度の間で減少している理由は「企業債支払利息の減に伴う負担金の減少」によるものと解釈してよろしいでしょうか。</p>	<p>資料2の5ページの総括表において、医業収益と医業外収益をそれぞれ以下のように整理しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医業収益 診療により得られる経常的な収入。 ・一般会計繰入金 地方公営企業法において「本来その経費を企業の料金収入(診療収益等)によってまかなうことが不適当である経費」に対して認められた繰入金。病院事業においては救急医療の確保及び医療相談業務に要する経費が該当。 ・その他医業収益 特別室料や文書料など。 ●医業外収益 診療以外により得られる経常的な収入。 ・一般会計繰入金 地方公営企業法において企業の料金収入(診療収益等)によって回収し得ない、いわゆる不足経費分に対して認められた繰入金。病院事業においては精神医療の運営など高度で特殊な医療で採算をとることが困難な経費が該当。 ・その他医業外収益 補助金、施設使用料など。

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
			<p>一般会計繰入金の減少理由は、医業収益においては救急医療の収支改善による負担金の減少、医業外収益においては企業債支払利息の減に伴う負担金の減少が大きなものです。</p>
	質問 (議題1)	<p>病院整備費や医療器械購入費等が毎年増加する中で、企業債の発行額を増加しても収支バランスを図ることが難しく、資金残高も残り少なくなっている状況で今後、地域基幹病院として新型コロナウイルス感染症対策を含めたより高度な医療サービスをどのように提供していくのか現時点で検討している対策等について教えてください。</p>	<p>建物や設備の改修及び医療機器の更新等は、平成31年4月に策定した中期経営計画の枠組みの中で計画的に進めております。</p> <p>感染症指定医療機関及び高度急性期病院としての当院の役割を果たすため、引き続き必要な投資を行ってまいります。</p>
	質問 (議題2)	<p>日夜、新型コロナウイルス感染症対策に全力を尽くされている皆様方に深くお礼申し上げます。</p> <p>高度な感染症指定医療機関として全市的な医療提供体制のバランスを考えた場合に、今後、市立札幌病院として新型コロナウイルス感染症患者の受入体制をどのように強化していくのか教えていただきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に係る全市的な医療提供体制は市保健所が中心となって構築を進めており、各医療機関の機能等を踏まえて役割分担が整理されています。</p> <p>当院は、感染症指定医療機関かつ新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、人工呼吸器管理が必要な重症患者及び酸素投与を必要とする中等症患者や、他院での受け入れが難しい患者を受け入れてまいります。</p>
	質問 (議題2)	<p>令和元年度と比較して令和2年度における一般救急患者の受入数はどの程度減少したのか教えていただきたい。</p> <p>またこのように大きく一般診療の制限を行わなければならなかった大きな理由（人員不足、患者の動線分離等）を教えていただきたい。</p>	<p>令和2年度の救急患者の総数は約4割減少しており、3次救急を担う救命救急センターでは、一般救急患者の新入院患者数が令和元年度の半数以下となりました。</p> <p>この主な理由として、感染症患者の治療のために、一般診療に従事する職員を減らさざるを得なかったことや、一般診療用の病床を感染症用の病床に転用したことなどが挙げられます。</p>
	質問 (議題2)	<p>第5波の新型コロナウイルス感染症が急速に進行し今後、入院希望者が増加していくと予想される中で、市立札幌病院として今後、ワクチンの早期確保に向けた国等への積極的</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に係る全市的な医療提供体制は市保健所が中心となって構築を進めており、自宅療養者への往診の役割は別機関が担っています。</p> <p>また、ワクチンの早期確保等、その時々</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
		<p>な陳情や自宅療養者に対する往診体制の強化・支援及び現有の遊休化した入院病棟の活用等の可能性についてお伺いしたい。</p>	<p>課題に対する国への要望等は、札幌市や病院関係団体等を通じて行ってまいります。</p> <p>なお、市内の感染状況に応じた病床の運営を行っておりますが、長期に遊休化している病棟はありません。</p>
早坂委員	意見 (議題2)	<p>はじめに、昨年1月から新型コロナウイルス感染症患者受け入れ、長期間にわたり新型コロナウイルスと闘っておられる医療スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。</p>	<p>ねぎらいのお言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお声を励みにして、今後とも診療にあたっております。</p>
	質問 (議題1、2)	<p>資料2の2(参考)業務量の詳細にある、2年度の予算と決算見込を見ると、病床利用率、入院患者数、1日平均患者数などで予算に対する決算見込は大きく下回っている。</p> <p>こうした状況は、3年7月末までの札幌市の感染状況をみると、3年度中に大きく改善するとは思えない。</p> <p>さらに、資料3の1(2)「一般診療への影響」の中で、令和2年度の延入院患者数は、元年度から約6万人の減少の13万9,859人であり、令和3年度(～6月)の状況は29,018人とある。</p> <p>また、延入院患者数のうち新型コロナ患者数は、2年度10,487人に対し、3年度(～6月)はすでに6,302人となっている。</p> <p>これらデータは3年度予算の診療収益にも直結すると思うがどうか。</p>	<p>令和2年度から引き続き、令和3年度においても例年より患者数が少なくなっている状況です。</p> <p>お見込みのとおり、患者数の増減は診療収益に直結するため、今後の新型コロナウイルス感染症の対応状況にもよりますが、令和3年度の診療収益に与える影響は小さくないものと考えております。患者数の減少による診療収益の減収については、空床・休床の補填に係る適正な額を国に要望してまいります。</p>
	質問 (議題2)	<p>資料3の1(2)で、6月以降は新型コロナウイルス感染症の状況に注視し段階的に一般診療体制の拡充を進めるとのことだが、段階的な拡充についての具体的な基準のようなものはあるのか。</p>	<p>一般診療の拡充に係る画一的な基準はありませんが、新型コロナウイルス感染症患者の入院状況や市内感染状況の予測を踏まえて病院内の関係者で議論し、保健所との調整を行いながら、適宜方針を決定してまいります。</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
平本 委員	意見 (議題2)	<p>資料を拝見いたしました。内容についての質問はございません。</p> <p>COVID-19 の入院患者数に応じて確保病床数を増減させ、受け入れ体制を最適化すべく努力なさっておりますこと、ご対応に感謝いたします。いわゆる第5波では、これまで以上の入院患者数の増加も考えられ、まだまだ厳しい状況が続くことが予想されますが、引き続きのご対応をいただけますことをお願いいたします。札幌市民の命を守る「最後の砦」としての機能が引き続き維持されますことを願っております。</p>	<p>ねぎらいのお言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお声を励みにして、今後とも診療にあたってまいります。</p> <p>8月19日の段階では、市内で300名を超える新規感染者が発生するなど、第5波の感染状況は予断を許さない状況が続いておりますが、引き続き感染症患者を積極的に受け入れて治療にあたりるとともに、当院が担うべき政策医療の提供等についても、役割を果たしてまいります。</p>
渡辺 委員	質問 (議題2)	<p>新型コロナウイルス感染症への対応について、感染した妊産婦や人工透析患者の受け入れはしていますか。</p> <p>また、その状況について教えてください。</p>	<p>感染した妊産婦や人工透析患者は受け入れています。</p> <p>妊産婦は、今までに約5名を受け入れており、症状は比較的軽症でした。</p> <p>一方透析患者は、多い時で約10名/日を受け入れています。市内でコロナ陽性透析患者を受入れる施設が少なかったことや、ほとんどの患者が合併症を伴い重症化しやすい状況であったことから、当院が積極的に対応していました。</p>